

「エシカル消費」「SDGs ウオッシュ」～高校生のポスターセッションで独創的な視点の発表相次ぐ

「高校生 SDGsポスターセッション」では 15 校の高校生チームが参加しており、発表は力作ぞろいだった。その中でも興味をひかれたのは、まず徳島県立城東高校チームによる「エシカル消費」の研究だった。エシカル消費とは、消費者が自分自身の欲望を満たすのではなく、社会問題解決のために行う倫理的な消費活動のことだ。

徳島県民でエシカル消費を認知している比率を調べると、「言葉の意味まで知っている」と答えた人は約 17%に過ぎなかったという。徳島県立城東高校チームでは、ゆるキャラ「えしかぶ」を考案して LINE スタンプにすることで、柔らかいイメージでエシカル消費の宣伝をしているそうだ。



エシカルクラブで活動する中で、ペットボトルの分別がされていないゴミ箱が気になり、担任の先生に相談したことが今回の研究のきっかけになったという。同チームの女子生徒(2年生)は「これからの社会を担う高校生に向けて、同じ高校生の私たちからエシカル消費を広めたい」と笑顔で語った。そして、今後の目標としては「このイベントを通じて、SDGsへの意識が高まった。知らなかった言葉もたくさん知ることができた。活動は継続が大事なので、後輩たちに活動を繋げて生きたい」と強調した。

また、奈良学園高等学校の学生チームも非常に興味深い発表をしている。それは「SDGsウォッシュ」に関する研究だった。SDGsウォッシュと

は SDGs に取り組むとしながら、実態が伴っていない企業などの行動を批判する言葉だ。奈良学園高校チームは、こうした問題が発覚した企業の経常利益率と株価の関係を調査していた。

チームのある男子生徒男子が(2 年生)は、「コロナ禍明けに SDGsを知った。学校で暗記させられた」という。それでも、今回の研究を熱心に進めたのは、「(一部の企業にはSDGsに本気で取り組もうとする)ちゃんとした目的がないのではないか」という疑問からだった。

高校生だからこそそのユニークかつ鋭い視点の研究がとても多かった。これからの社会を担う高校生の、これからのさらなる研究にも注目していきたい。(日経 STEAM 学生取材班 小林彩乃記者)